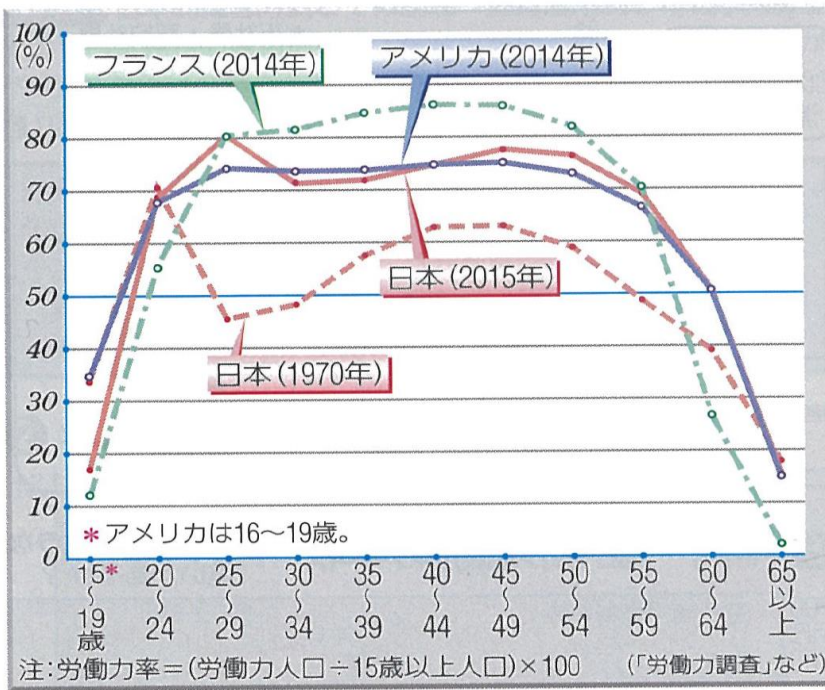


平成 30 年度 中村高等学校国際科入学試験 サンプル問題

〈作文〉

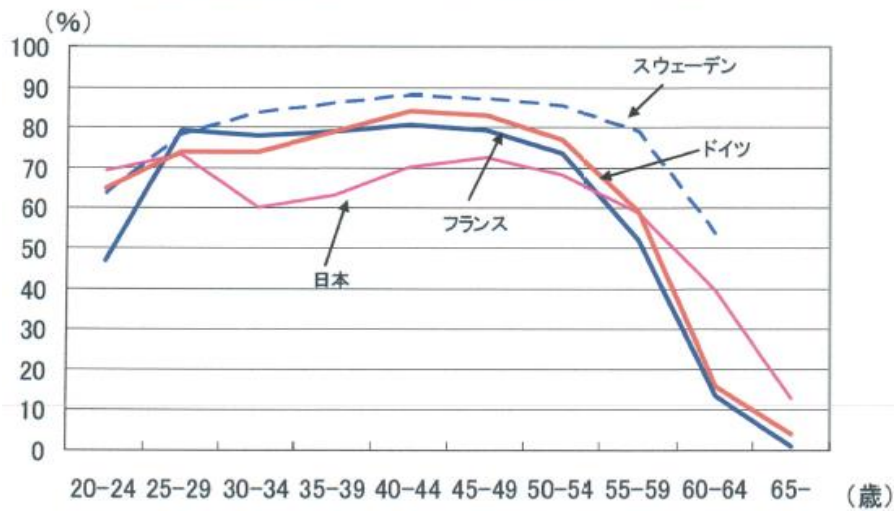
データ1

❁ 1 年齢別労働力率 ④ 諸外国との違いは何か？



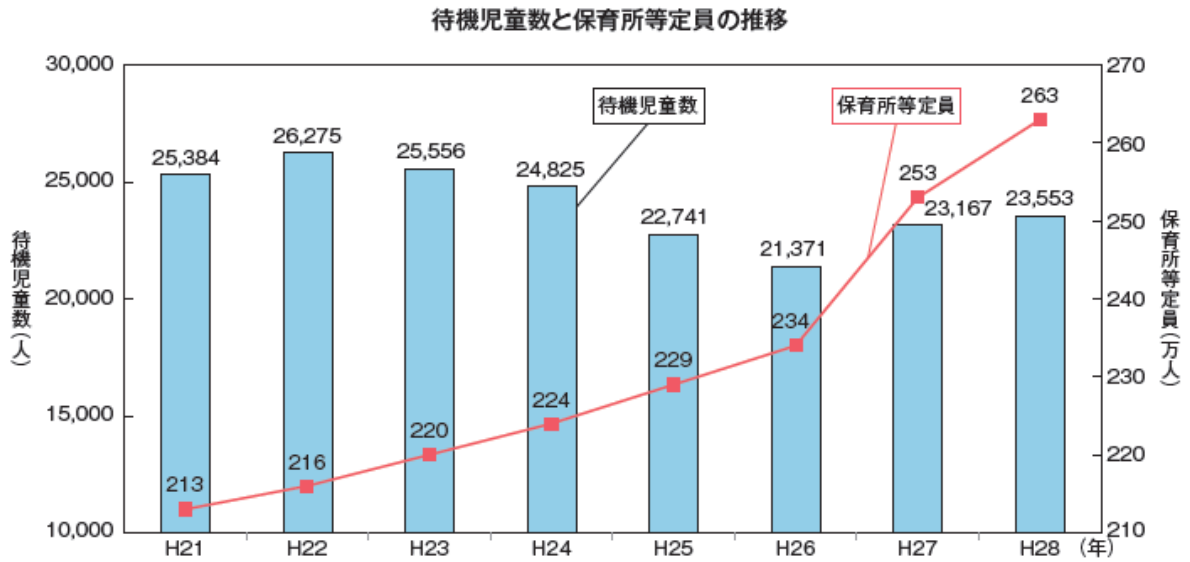
データ2

年齢別女性労働力率: スウェーデン、フランス、ドイツ、日本



(出所) フランスの数値は2000年(総務省統計局「世界の統計」2004年版)、スウェーデンの数値は2002年(ILO Yearbook Labour Statistics 2003)、日本の数値は2003年(総務省統計局「労働力調査」(平成15年))、ドイツの数値は2003年(OECD "Labour Market Statistics")。

データ 3



厚生労働省資料

データ 4

表 1 育児休業取得率の推移

(%)

	平成8年度	平成11年度	平成14年度	平成16年度	平成17年度	平成19年度	平成20年度
女性	49.1	56.4	64.0	70.6	72.3	89.7	90.6
男性	0.12	0.42	0.33	0.56	0.50	1.56	1.23
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
女性	85.6	83.7	[87.8]	83.6	76.3		
男性	1.72	1.38	[2.63]	1.89	2.03		

注:平成23年度の[]内の比率は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

育児休業取得率＝ $\frac{\text{出産者のうち、調査時点までに育児休業を開始した者(開始予定の申出をしている者を含む。)の数}}{\text{調査前年度1年間(※)の出産者(男性の場合は配偶者が出産した者)の数}}$
 (※)平成23年度以降調査においては、調査前々年10月1日から翌年9月30日までの1年間。

問1

データ・図表を読み取り、正しい内容を選択肢から選ぶ問題

データ1にみられる1970年の日本の年齢別労働力率の特徴として正しい選択肢をすべて選びなさい。

- ア 日本では20代において労働力率が下がっている。
- イ 日本では10代の労働力率は40%を越えている。
- ウ 日本では40代の労働力率は70%を越えてピークである。
- エ 日本では40代後半から労働力率が下がっている。

問2

データ・図表から読み取れることを文章化する問題

データ1にみられる2015年の日本の年齢別労働力率と1970年の日本の年齢別労働力率を比べて、どのような変化が見られるか。50字以内の日本語で説明しなさい。

問3

データ・図表から読み取れる情報をもとに、現代社会への批判的思考、創造的思考を通し、自分自身の見方や考え方を文章で表現する問題

データ2より、各国と比べると日本の年齢別女性労働力率は概して低いことがわかる。この状況の原因と労働力率を上げるために必要な対策について、データ1から4を参考にして、あなたの考えを150字以内の日本語で述べなさい。

〈解答〉

問1 ア エ

問2 1970年に比べ、2015年は全体的に労働力率が向上し、特に20代後半の向上が著しい。(43字)

問3 日本では育児と労働の両立が困難である。この状況を変えるために、保育園そのものの設置数を増やし、保育士の待遇改善などの対策を進め、待機児童の問題を改善することが求められる。また、長時間労働を制限するなどして、人々や企業、社会の育児に関する意識を変化させるための努力が必要である。(138字)